

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会

令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日）

事業報告

1. はじめに

3年を経てようやくコロナ禍は収まりはじめ、スカウト活動も活発化してきました。

この間、“Scouting Never Stops!”の合言葉のもと、さまざまな制限のなか ICT（情報通信技術）を活用するなど、創意と工夫によって活動を展開してきました。

第18回日本スカウトジャンボリー（4年ごとに開催されてきた全国キャンプ大会）は分散開催となり、京都では8月に地区や隊、または合同による5泊6日のキャンプとして12会場に合計508名が交流を深めました。スカウト技能を競うプログラムではオンラインにより全国での順位が速報されるという、新しいスタイルにもチャレンジしました。ほかにも SNS や web を活用して、スカウトソングの研修に「うたカフェ」、英会話の習得に「イングリッシュカフェ」という番組を設けました。

秋には天皇后陛下ご来臨のもと（公財）ボーイスカウト日本連盟100周年記念式典が開催され、京都から代表スカウト・指導者が出席しました。

京都連盟は重点施策に「スカウト活動をより多くの仲間に」と掲げ、各地区・団において一般の親子を対象にした「ワクワク自然体験あそび事業」を積極的に展開し、ビーバー・カブスカウトの新規加入者を増やしました。

また京都産業大学にローバー隊が復活、元の京都第53団として再スタートを切りました。このほかに、京都大学（京都第36団）、同志社大学（京都第43団）、京都外国語大学（京都第40団）、立命館大学（京都第90団）の各大学ではそれぞれローバー隊が活動しています。ローバースカウトはトップランナーとして、京都ユースネットワークや近畿ブロック、全国での活躍が期待されます。

さらに、10月はインターネットを通じて世界のスカウトと交流する「JOTA:ジャンボリー・オン・ジ・インターネット」に118人が参加、1月には3年ぶりに韓国京畿南部連盟から16人のスカウトらが来洛、ホームステイを受け入れました。今夏は韓国で開催される「世界スカウトジャンボリー」に京都から46人を派遣します。

コロナ禍に負けることなく、スカウト・指導者ともそれぞれの持ち場で活動をつづけることが、“Creating a Better World”として社会を明るくする運動となることを目指して、社会の期待に応える所存です。

振興会賛助会員のご篤志により様々な活動を支援することができました。厚く御礼申し上げます。当該会計年度は、維持会費収入が2,220千円と前年度比同額となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

一 事業費として、助成金総額 1,800 千円を支出した。

京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

一 分散開催となった「第 18 回日本スカウトジャンボリー」には、助成金総額 1,800 千円のうち、事業費 500 千円を支出し、それぞれ次の会場で開催された。

■7月28日～8月2日

亀岡第1団 静原キャンプ場 25人

■8月3日～8月8日

京都第92団 国立淡路青少年交流の家 17人

■8月5日～8月10日

京都第77団 大原学舎 20人

■8月11日～16日

京都第23団 静原キャンプ場 30人

京都第91団 浅柄野野営場 12人

向日第1団 比良げんき村 23人

長岡第2団 長岡第2団キャンプ場 6人

洛桜地区地区大会 青葉山ろく公園 90人

洛星地区地区大会 青葉山ろく公園 77人

白樺地区地区大会 青葉山ろく公園 92人

京都第1団 青葉山ろく公園 15人

北星地区地区大会 青少年野外活動センター91人

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
期日	4月2日	6月19日	10月16日	11月6日	3月11日
会場	下鴨神社 公文所	宇治市 中央公民館	洛西 境谷会館	綾部市 市民センター	下鴨神社 公文所
参加者	25人	26人	17人	9人	25人

(参考) ウッドバッジ研修所等の実施状況

名称	WB 研修所 スカウトコース 京都第5期	課程別研修	
		VS 課程 京都第2回	CS 課程 京都第5回
期間	5月2日～5日	7月3日	9月25日
会場	静原キャンプ場	京都テルサ	京都テルサ
参加者	16人	7人	5人

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町27番地

(当法人所有：山林22,559平方メートル、原野521平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4月17日	15人	イベント委員会
2. 隊キャンプ	5月3日～5日	61人	京都第23団
3. 行事(場内清掃・バーベキュー交流会)	6月5日	21人	京都西ライオンズクラブ
4. 夏季整備作業	7月17日	16人	イベント委員会
5. 冬ごもり整備作業	11月27日	12人	イベント委員会
6. 雪中キャンプ	2月11日～12日	14人	亀岡第1団
合 計	9日	延べ139人	

事業実績

広河原野営場建物の減価償却費80,730円が主な費用実績である。

また、トイレの改修に修繕費77,000円を支出した。

(オ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について

利用状況がはかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア) 趣旨

ボーイスカウトの指導者が、テーマを設けて研修する催しに青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ) 事業実績

- － 安全研修 3月18日 春の活動を前に、事故事例から安全の大切さを学ぶ。
オンラインにて、30こ団86人参加
- － 指導者全体ワークショップ 2023 10月28日(土)～29日(日)
スカウト活動に役立つ技能を実習を通じて学ぶ。
静原キャンプ場にて、73人参加

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

- － 韓国京畿南部連盟受入
1月7日～11日、韓国連盟スカウト16人・指導者8人を受け入れ、ホームステイや交歓プログラムを実施した。
- － ジャンボリー・オン・ジ・インターネット(JOTI)／ジャンボリー・オン・ジ・エア(JOTA)
世界スカウト機構が主催する公式国際行事で、10月14日～16日に全世界でインターネットやアマチュア無線を利用して、スカウト同士が国境を超えた情報交換と友好を深めた。京都連盟からは118人が参加した。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

社会参加事業として、各種の奉仕活動を展開した。

- － 全国防災キャラバン
- － 日本連盟提供、文部科学省・京都府/市教育委員会後援事業「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」に各団が独自のプログラムで展開した。全56事業を実施し一般児童親子を受け入れ、さまざまな体験活動を提供した。
- － 皇后杯第41回全国女子駅伝 1月15日、安全な運営のためにコースの自主整理員として525名が奉仕した。
- － 天皇杯第34回全国車いす駅伝競走大会 3月12日、同じく472人が奉仕した。

(ウ) 環境まち美化活動支援

例年各団が春と秋に奉仕してきた「みどりの募金」活動は各団で実施した。

京都市「まち美化運動」に協力の一環として、日本連盟提供プログラム「プラごみバスターズ」によりプラスチックごみ削減に協力した。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「ビーバーランド」「カブラリー」等、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等について、ホームページを開設しているが十分に機能が果たせていない点は改善の余地がある。
- ② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行った。
- ③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼した。
- ④ OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページを通じて公募した。

(イ) 事業費実績

主な事業費は、ホームページ運営改革費（198,000円）を支出した。

(6)財源の確保（維持(賛助)会費の入金状況）

維持(賛助)会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
維持会費収入額	2,470 千円	2,560 千円	2,420 千円	2,310 千円	2,220 千円

当該会計年度は、維持(賛助)会費収入が 2,220 千円と前年度比同額となりました。

引き続き、役員の方には、21世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上